

NOTICIAS DE S. PAULO

(Primo Diario Nipponico Publicado no Brasil)

(1) No. 1867

sr. M. Kob.
小林 美登利
R. G. Bueno, Jr.

5a Feira, 8 de Junho de 1939



聖市
郵局
發行人
香山六郎
購讀料
一年六〇銭
一段七二五
NOTICIAS DE SÃO PAULO
Caixa, 2105 - Fone, 2-5053
S. Paulo - Brasil

わが完壁の包囲陣！

蘇露特別戰區總司令

敗殘の干學忠最後の足がさ

敵軍十萬そく滅の時到る

(北京七日同盟) 去る三月の海綿作戦及び四日反攻戦にわが軍によつて徹底的打撃をうけた敵の蘇露特別戰區總司令于學忠は敗殘の身を遠く五省北部洪澤湖附近においてゐたが

次第に部下軍を集結秘かに廬海線を越へ再び山東省に潜入省内に轉向軍の行をのがれてる後山東省主席沈烈と伍し五月末には于學忠麾下五十ー軍の百十三、百十九の二個師が西北部山地に、總徹流の指揮する五十七軍百一、百十二の二個師は莒縣にそれを據居し別に新編第四師(師長吳文文)及び六十九遊擊隊は山東中部の泰山等々に潜んで蠢動するその總數約十万に達したが我軍は断乎これに鐵桶を下すべく三日拂曉を期して大包围戦の火蓋を切つた即ち江西綫方面よりは

北支治安工作最大の力

我が抜本的掃滅戦開始

○部隊の主力を以て南下、また津浦線兗州方面には役山郡隊が所在の敵を撃破し山中の敵第一線據点に迫りこれを呼應する北進を續ける錦州警備隊と協同して敵五十一軍に決戦を挑み東部隊また海州方面より援軍の勢で北進を開始したかくて三日山東中部に番居する十万の敵軍に對する

わが完壁の包囲陣は成り最後の足搔きを續けてきた于學忠軍殲滅の機會は正に到りわが各部隊は勇躍百倍一度の炎暑もものごとせず包圍圈を縮少しつづ進撃を續けてゐる

敵は勇躍百倍一度の炎暑もものごとせず包圍圈を縮少しつづ進撃を續けてゐる

敵は勇躍百倍一度の炎暑もものごとせず包圍圈を縮少しつづ進撃を續けてゐる</

伯善に拍車

日伯協會 快心のヒット 交換を計る 児童作品の

榮譽に輝やく第二世

總領事館の表彰式

喜びをかたる兩人親達

昨日本紙既報の如く過日のたるものである、又正教君は中学校四年であるが、成績も於て優秀せる聖路立中学校常に扶群立同中學の秀才である。代表選手中の邦人第二世は七歳の誕生日に對する記念品贈呈式は、上廣間に於て館員及び教育者等の令息正教君であるが、和子会側例席の上舉行された坂根總領事は兩人今回の榮譽を稱揚した後、その将来、邦人育成の元祖故太田氏と、日本進級の際は二番の成績で今回代表選手に選ばれ

通學路に恐怖 マリ、ヤ奥の出來事

お心 童

伯語學校も存せぬ奥地民地、おける邦人兒童の生き姿は不幸ともいふべく又懲りてもいふべく、父兄の心は切れて此處に歸し、永住の何處へか北支那に心地よい處に是又心に基するものを見られるが、少しだけ心地よい處に近し、今日左記の事件は又別な意味に於て児童を不安ならしめると共に、かかる危険下に暴される小さき奥地二世の姿はむしろ悲惨とも

云ひ得るのである

(三歳)は去る五月上旬學校より

の間、一方はマット一方

の間、一方はマット一方</div

